

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	132人	算数	132人	理科	132人
第5学年	国語	112人	算数	112人	理科	112人

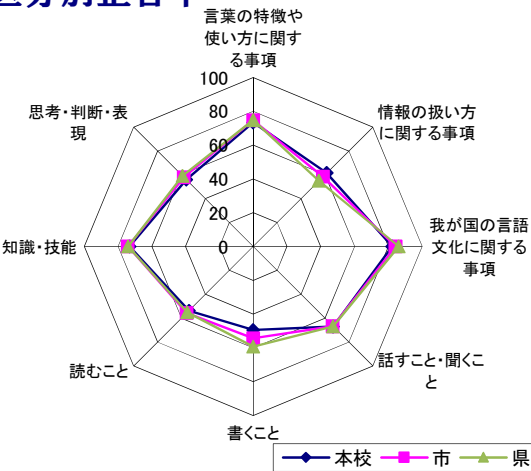
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	61.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	82.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.9	66.7	66.9
	書くこと	49.4	54.3	59.3
	読むこと	53.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	73.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	55.9	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

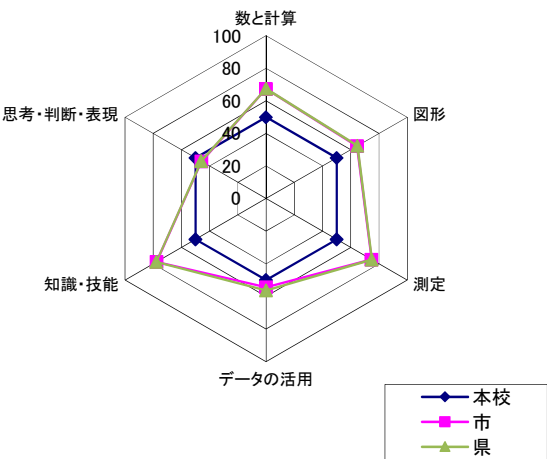
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも1.4ポイント、市よりも1.3ポイント下回っている。 ○「絵を見て、台詞の空欄に適する指示する語を選ぶ」に関する問題に正答率は、県や市の平均より高い。 ●「漢字を正しく書く」に関する問題の正答率は県や市の平均よりも8ポイント以上低いものもある。	・漢字の読み・書きの能力を高めるため、ドリルなどを活用し、毎日継続していく。 ・タブレットの活用で、ローマ字の習熟は図れてきたが、その反面紙に文字を書く機会が以前より減ってきているので、ノートに漢字練習をする機会を意図的に増やしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも6.5ポイント、市よりも3.1ポイント上回っている。 ○「国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうか」に関する設問に関しては、市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。	・国語の授業における様々な単元において、積極的に国語辞典を活用できるようにするとともに、国語科の学習だけではなく、総合的な学習などの他教科においても、国語辞典を活用して言葉の意味の理解を深めながら、自身の課題解決につなげていくことができるように継続して指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県と市の平均を下回っている。 ●「漢字がへんやつくりから構成されていることについて理解している」に関する問題の正答率は市の平均を2ポイント、県の平均を3.8ポイント低い。	・漢字に対する興味や関心を高めることができるよう、成り立ちや意味について考えながら漢字を読んだり書いたりできるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の正答率と同等であり、市の平均より0.2ポイント高くなっている。 ○「司会者の話し方の工夫を捉えることができる」に関する問題の正答率は県や市の平均より上回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる」に関する問題の正答率は県の平均とは同等であるがやや下回り、市の平均よりも2.1ポイント下回っている。	・話をの中心を考えながら聞くことができるようにするために、国語科だけでなく学校生活における様々な場面において話を内容を振り返ったり、確かめたりする時間を設ける。 ・自分の考えが相手に伝わるように話す力を身に付けさせるために、各教科において自分の考えを相手に伝える時間を設けていく。
書くこと	平均正答率は、県よりも9.9ポイント、市よりも4.9ポイント下回っている。 ●「指定されていた長さで文章を書くことができる」という設問の正答率は市の平均よりも6.5ポイント下回っている。 ●「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができる」という設問の正答率は市の平均よりも6.5ポイント下回っている。	・授業内において、自分の考えをまとめる活動や、文の長さや、文章をまとめる際に必要な条件などを丁寧に指導する。 ・国語だけでなく他教科の学習においても、自分の考えを明確にし、条件に合わせて文章を書いたり、情報を取捨選択して文章を書いたりする場を多く取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、県よりも1.5ポイント、市よりも1.9ポイント下回っている。 ○「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかどうか」に関する問題の正答率は、県と市の平均より1ポイント以上高い。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうか」に関する問題の正答率は、県の平均より6ポイント、市の平均を7ポイント以上低い。	・文章を読み取る力を伸ばすために、場面の様子を読み取ったり文を要約したりする学習では、叙述を基に考えたり、感想の交流を行ったりする際に叙述のどこから考えるのかを述べたり共有したりできるように指導していく。 ・説明文の内容を読み取る力を伸ばすために、国語科だけではなく、他教科においても、収集した情報から重要な語や文を見つけて説明したり要約したりする活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.0	67.3	67.4
	図形	50.0	64.5	64.7
	測定	50.0	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	50.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	50.0	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

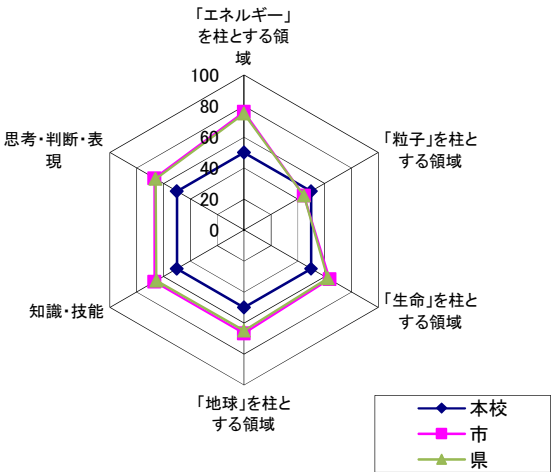
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の正答率を3.2ポイント、県の正答率を3.1ポイント上回った。 ○除法の立式をする設問について、市の正答率を9.7ポイント、県の正答率を11.5ポイント上回った。 ○整数と小数の減法の設問について、市の正答率を7.4ポイント、県の正答率を8.5ポイント上回った。 ●同分母の真分数同士の加法の設問について、市の正答率を2.8ポイント、県の正答率を2.4ポイント下回った。 ●式の意味を言葉で説明する設問について、市や県の正答率は上回っているが、本校の正答率は16.9%と低い。	・既習事項を家庭学習や一人一台端末でのドリル学習などを活用し、習熟を図る。 ・分数の分母と分子の関係やそのしくみについて確認し、計算の仕方を復習する。「分数の大きさとたし算、ひき算」の学習においては、仮分数や帯分数の理解につなげていけるように丁寧に指導していく。 ・四則演算の意味や、なぜその式が成り立つのかなど、計算だけに偏らないよう、すべての単元を通して式の意味などについてじっくりと指導していく。
図形	平均正答率は、市の正答率を1.7ポイント、県の正答率を1.5ポイント上回った。 ○円の中心とコンパスを使い方を問う設問について、市の正答率を12.5ポイント、県の正答率を11.5ポイント上回った。 ●球の半径を求める設問について、市の正答率を8ポイント、県の正答率を9.3ポイント下回った。 ●コンパスを使って正三角形を作図する設問については、市や県の正答率は上回っているが、本校の正答率は36.9%と低く、無回答率も23.9%と高い。	・球の模型やデジタル教材などを活用して、具体的な場面を提示したり「立体」の学習とも関連付けやりしながら、実感をもって図形を捉えられるようにする。 ・授業の中で、考えた理由を自分の言葉で話したりノートに書いたりして表現する機会を多く設けることで、表現力を高めていく。 ・コンパスなど算数で使用する用具の使い方は理解しているが、実際の使用についてはまだ課題が多い。算数の「角」の学習に限らず、理科や社会の学習でも積極的に算数の用具を使用する機会を増やす。
測定	平均正答率は市の正答率を1.3ポイント、県の正答率を1.1ポイント上回った。 ○地図から道のりの和を求める設問について、市の正答率を2.9ポイント、県の正答率を2ポイント上回った。 ●時間が経過する前の時刻を求める設問については、市の正答率を0.3ポイント下回った。	・算数に限らず、社会や理科の学習等、普段の生活の中でも、時間を推察し考える活動を多く取り入れていく。 ・「1分=60秒」という時間の問題に限らず長さに関しても、自分の身長や休み時間の長さなどを例にして考える機会を設けるなど、時刻と時間の確実な定着を図る。
データの活用	平均正答率は市の正答率を4.1ポイント、県の正答率を2.1ポイント上回った。 ○棒グラフを読み取り2番目に多かったものを答える設問については、市と県の正答率を3.9ポイント上回った。 ●1目盛りの数が異なる棒グラフを比較する設問については、市の正答率を4.2ポイント上回ったが、本校の正答率は23.9%と低い。	・「くらべ方」の学習などと関連付け、グラフや数直線を丁寧に扱うことで、データの活用の仕方についての学習の習熟を図る。 ・様々なグラフを読む練習を繰り返したり、必要な情報を正確に選んだり、出題されている文章との整合性を判断したりする学習を取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	50.0	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	50.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	50.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	50.0	66.8	65.4
	思考・判断・表現	50.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○電気を通す物が金属であることや糸電話で音を伝えるのは糸の震動であることなど、実験を通して実際に体験したことや新しい知見を得られた時に理解が深まる。 ●実験の結果を、その目的に応じてどのようにまとめたらよいか、また、その結果からどのように判断したらよいか考えをまとめる点で課題が見られる。	・目前で起こる変化が顕著で、実感を伴った実験を通しての学習は意欲も高く、理解も深まると思われることから、今後も、その事象に興味関心を喚起できるような導入や実験を工夫していくようにしたい。 ・実験の目的を明確にした上で、結果の予想を基にまとめ方や表の工夫を共に考えながら、結果の表し方を身に付けられるようにしたい。また、目的に応じて実験方法を計画する事などについても力をいれる必要があると考える。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均よりも1.4ポイント低い。 ○同じ物であれば、同じ大きさの物の重さは等しいということを理解できている。 ●重さが同じ物でも形が変わると重さが等しくならぬと考えてしまう点に課題が見られる。	・具体物を使って行う実験・観察を多く取り入れることで、実験の結果を基に推測したり応用して事象を説明できるようにしていきたい。 ・学習したことを身の回りで起きている様々な事象と結び付けたり体験させることで、理解を深めさせるようにすることが大切であると考え。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○観察記録の必要事項の理解や、アゲハチョウの産卵植物、クモが昆虫でないことなど、実際に実物などの観察等を通して、自分の目で確かめたことは定着率も高い。 ●虫眼鏡の使い方などの道具の正しい使い方、植物の成長の変化を時系列的に捕らえるなどの面で課題が見られる。	・今後も、できるだけ実物を用いた観察を通して、その時々の変化だけでなく時系列な変化にも着目させながら記録を取らせるようにすることで、その生物に興味関心をもたせるとともに、生命の意味に迫るようにしたい。 ・様々な道具や用具を実際に用いながら、その正しい使い方を身に付けさせるようにするとともに、用語を適切に使って働きを身に付けさせ、その道具の便利さなどにも目を向けるようにしていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比較すると2ポイント低いものの、県の平均とはほぼ同じである。 ○午前10時と正午のストローの影から、午後2時の影を選ぶ問題は正答率が高かった。 ●温度計の正しい使い方や、日なたと日影の気温を予想させる問題に課題が見られた。	・モデルや具体物を使って実験観察を行い、得られた結果の考察に十分時間をかけ、できるだけ記述に取り組みせることで、順序立てて説明する力を身に付け、さらに理解を深められるようにしたい。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童は80%以上である。授業の中でペアやグループでの活動を意図的に取り入れ学び合う機会を設定していることが結果に結びついている。一方で「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の質問への肯定的回答は55%程度であった。

●「先生は学習のことについてほめてくれる」「授業で分からないところがあると、先生に聞くことができる。」についての肯定割合が、同じで市平均より下回っている。教師からの声掛けを増やし、分からない問題も自分から質問し、主体的に問題解決をしていける学習環境づくりを図っていく必要がある。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」に96%以上の肯定的回答があり、真面目でよく働く姿が分かる。

○家で学校の宿題をしている児童が県全体の平均を4%上回っていることから、真面目に学習に取り組んでいることが分かる。

○読書に関する質問「1か月に何さつくらい本を読みますか。」の質問には、11冊以上読む児童が県の平均を6%上回り、読書をする児童が多いことが分かる。

○グループなどの話し合いに自分から進んで参加している児童が、市の平均を上回っている。今後も、友達と話し合う活動を多く取り入れて、意欲的な学びへと結び付けていきたいと考える。

●「友達と話し合う時、友達の意見を最後まで聞くことができている。」については、90%の児童が肯定的回答をしているものの、市や県より5%程下回っている。発表の前の段階で学習内容についてじっくりと考える時間を確保するとともに、話型を示して自分の考えを話す練習を重ねることで、自信をもって発表できる児童の育成を図りたい。その中で話の聞き方についても指導を徹底していきたい。

●「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれている。」は5%程、市の肯定的回答を下回っている。友達のよいところを認め合う帰りの会のきらきらタイムや人権週間に行っているほめほめカード等を活用していくとともに、学習と生活の両面で、教師による児童を認める声かけや、友達同士の良さを認め合う活動を充実させ、自分のよいところを自覚し、自信をもって行動したり発言したりできる児童を育成したい。

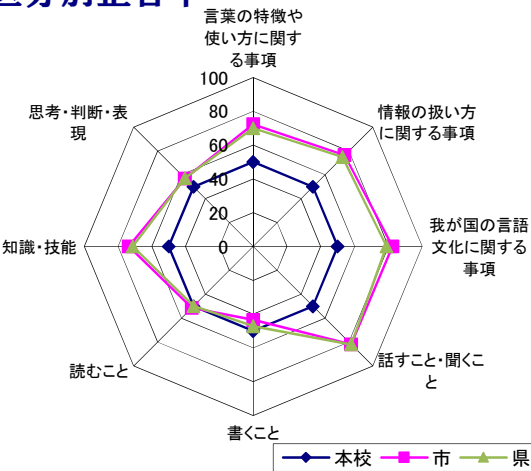
●自分で計画を立てて勉強したり、予習・復習をしたりする児童の割合は平均をやや下回っている。自主学習を定着させるなどして、自主的に学ぶ環境を整えていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと感じることがある。」についての肯定的回答が、県・市を下回っている。学ぶ楽しさを感じさせるためにも、授業内容の見直し、充実感を得られる教材の開発などを行い、児童の自発的な学びを促していきたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	50.0	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	50.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	50.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	50.0	81.9	82.0
	書くこと	50.0	43.5	47.2
	読むこと	50.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	50.0	73.6	71.3
	思考・判断・表現	50.0	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

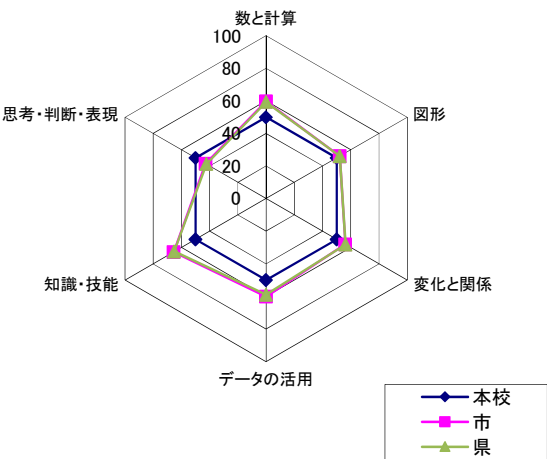
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県より4.1ポイント、市より1.8ポイント上回っている。 ○文を読み、様子を表す語句として適しているものを選ぶ問題は、全員正解であった。 ●第4学年に配当されている漢字を書く問題については、正答率が平均を上回ってはいるものの、無解答率も高い割合であった。	・漢字の読み方や熟語について理解を深めるために、朝の学習の時間、ドリルやプリントなどを活用し繰り返し練習する時間を設ける。 ・既習の漢字を使うことができるようにするために、国語科の学習だけでなく、文章を書く活動の際には漢字を使うよう意識させる言葉かけをする。 ・語彙を広げるために、読書や読み聞かせの機会を設ける。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県より4.7ポイント、市より3.2ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかの問いの正答率は、平均を上回りおよそ8割であった。	・漢字辞典や国語辞典の使い方が定着するよう、身近に辞典を配置するなど、辞書を使うことができる環境を整えるとともに、意味調べ、漢字の読み方調べ等、辞典を使って学習する時間を意図的に設けていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県より13.7ポイント、市より10.2ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができるかの問いでは、平均を上回る9割以上の正答率であった。	・我が国の言語文化に親しみをもたせるために、日常生活の中でことわざ等を用いて自分の表現ができるように指導したり、図書資料を活用し、我が国の言語文化に触れる機会を設けたりしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県より4.3ポイント、市より4.4ポイント上回っている。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかの問いの正答率は、9割以上であった。 ●話し合い活動において、意見の共通点に着目し、考えをまとめる問いの正答率は、平均正答率を上回る8割以上の正答率である一方、無解答が6.5ポイントであった。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えながら話を聞く力を伸ばすために、大事な言葉をメモに取りながら聞く時間を設定していく。 ・相手に伝わるように、自分の考えを話す力を伸ばすために、国語科の学習だけでなく、朝の会や学級活動などで自分の考えを話す場を設定していく。
書くこと	平均正答率は、県より5.3ポイント、市より1.6ポイント下回っている。 ●無解答の児童が2割見られた。最終問題であることから、時間が足りずに問題に取り組むことができなかった、あるいは、解答する時間がかかりすぎたと考えられる。	・資料から読み取ったことについて自分の考えを書く力を伸ばすために、国語科の授業において、事実と考えを区別して読み取ったり、資料から読み取った事実と自分の考えを明確にしなが文章を書いたりする活動を多く取り入れていく。 ・文章を書く力を伸ばすために、国語科以外の学習の場面においても、決まった時間内に、決められた文字数の文章を書く機会を設定していく。
読むこと	平均正答率は、県より3ポイント、市より1.6ポイント上回っている。 ○説明的文章において、中心となる文や語を見つけて要約する問いでは、6割を超える正答率であった。 ●物語文において、登場人物の性格についての問題では、県や市の正答率は上回ってはいるものの、正答率は4割程度であった。	・物語文を読み取る力を伸ばすために、国語科の学習において、叙述を基に考えさせる課題を設定したり、文章を読んで感じたことや考えたことを交流したりする活動を取り入れていく。 ・説明的な文章を読み取る力を伸ばすために、叙述を基に文章の内容を捉える課題、段落相互の関係を捉える課題を設定したり、いくつかの情報の関係を理解し、中心となる語や文を見つけて要約したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.0	59.7	59.2
	図形	50.0	52.1	52.1
	変化と関係	50.0	56.1	56.3
	データの活用	50.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	50.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	50.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

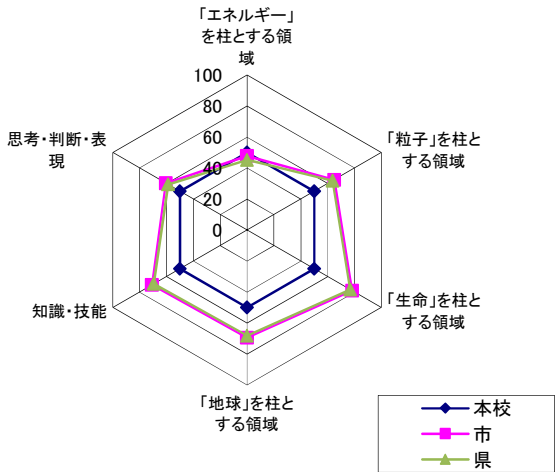
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県よりも8.2ポイント、市よりも7.7ポイント上回った。 ○分数や小数のしくみや簡単な計算、計算のきまりについては県や市の平均正答率を上回ったものが多い。 ●少数のしくみを説明する問題の正答率が市や県の正答率をやや下回った。	・基本的な計算がよく身に付いているので、引き続き習熟を図る。 ・図や式を用いながら、考えたことを説明したり、発表したりする機会を積極的に設ける。
図形	平均正答率は、県・市をともに5.3ポイント上回った。 ○図形の角度や複雑な面積を計算する問題の正答率が高く、市や県の正答率を6ポイント程度上回った。 ○ひし形を作図する問題の正答率も7割以上と高い。	・基礎が身に付き、応用の問題も解答できているので、AIドリルなども用いながら、引き続き習熟を図る。 ・およその面積を求める問題は市や県の正答率を上回っているが、半分以上の児童が解答できていないので、同様の問題を繰り返し解くことで習熟を図る。
変化と関係	平均正答率は、県よりも2.7ポイント、市よりも2.9ポイント上回った。 ○2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを考えて説明する問題は、市や県の正答率を8ポイント以上上回った。 ●伴って変わる2つの数量関係について、分かることを説明する問題の正答率が市や県の正答率よりやや下回った。	・伴って変わる数について身に付いている児童が多いので、引き続き習熟を図っていく。 ・自分の言葉で文章を書く問題の無回答率が多かったので、空欄の中に言葉を入れて回答する問題を多く解くなどして、文章の書き方に慣れさせたい。 ・普段の生活の中で、重さや距離、量について適宜その量について考えたり、イメージしたりする機会を多くもつ。
データの活用	平均正答率は、県よりも3.8ポイント、市よりも2.6ポイント上回った。 ○折れ線グラフから分かることを回答する問題の正答率は市や県の正答率を3ポイント程度上回った。 ●二次元表を読んで当てはまる数を回答する問題の正答率が県の平均をやや下回った。	・グラフや表の読み取りについて、類似の文章問題を積極的に解かせることで、定着を図る。 ・算数だけでなく、社会科や理科などの学習でもグラフや表を活用し、習熟を図る。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	50.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	50.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	50.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	50.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	50.0	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市よりも10ポイント以上、上回っている。 ○「電気のはたらき」において、針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことについての問題では、校内の正答率が県の正答率を29.1ポイント上回っていた。 ○「電気のはたらき」において、電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測することができるかという問題で、校内の正答率が県の正答率を9.5ポイント上回っていた。 ○「電気のはたらき」において、乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかどうかの問題では、校内の正答率が県の正答率を7ポイント上回っていた。 ●本領域において、3問のうち2問の無回答率が、県の割合より下回っているものの、5ポイント以上となっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実際に見たり、体験したりした内容については、今後できるだけ授業の中で取り入れ、実験などを丁寧に扱っていくようにする。 ・自己の思考過程の流れがつかめるノートの取り方の指導に重点を置くだけでなく、タブレットでの調べ学習や動画の活用なども取り入れることで学習の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市を上回っている。 ○「物の体積と温度」において、温度による金属の体積の変化について記述する問題に関しては、校内の正答率が県の平均正答率を9.3ポイント上回っていた。 ○「水のすがた」において、氷がもりあがる理由を、実験の結果と現象を結びつけて考え、記述できるかどうかをみる問題では、校内の正答率が県の正答率を14.5ポイント上回っていた。 ●「水のすがた」において、水がこおるときの温度の変化では、実験の準備を理解しているかどうかを見る問題については、校内の正答率が県の正答率を6ポイント下回っていた。	・粒子などの目に見えないものも、使用するワークシートやノートの書き方を工夫し可視化して表現することで、理解が深まるように指導していく。 ・自らの予想や仮説をもとに実験結果を作成し、児童一人一人が実験結果を見通す活動を丁寧にを行うことでなぜその実験にその準備が必要なのかをよく理解できるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市を上回っている。この領域ではどの問題でも市の正答率を上回っているか同程度である。 ○「生き物の1年間」について季節の変化とカエルのような関係付けを問う問題では、校内の正答率が県の正答率を8.8ポイント上回っていた。 ○「ヒトのからだのつくりと運動」について腕を曲げたときの筋肉の様子について問う問題では、県の正答率を7.5ポイント上回っていた。 ●選択式の問題では無回答はほとんどないが、短答式の問題では無回答率が上昇する傾向がある。	・実験や観察を丁寧に扱い、できるだけ授業の中に取り入れるようにする。 ・目に見えないものを理解させるために、模型を活用したり、タブレットでの調べ学習を行ったりして、視覚に訴える活動を取り入れる。 ・児童が得た知識を図や模型などを用いて説明する活動を取り入れることで、さらに知識を定着することができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均の正答率は、県や市を上回っている。 ○「月と星の動き」において、星の明るさと色についての問題に関しては、校内の正答率が県の正答率を8.9ポイント上回っていた。 ○「地面を流れる水のゆくえ」において、土の粒が大きい砂利で実験した時の結果と水たまりのできやすさを選ぶ問題に関しては、校内の正答率が県の正答率を11.6ポイント上回った。 ●「月や星の動き」において、月の動きについて当てはまる言葉を選ぶ問題に関しては、校内の正答率が県の正答率を3.1ポイント下回っていた。 ●「地面を流れる水のゆくえ」において、水そうの水が減った理由を選ぶ問題に関しては、校内の正答率が県の正答率を4.2ポイント下回っていた。	・毎日の生活の中で、方位を意識させる声かけをしたり、他教科の学習と関連付けたりしていくことで、方位と自然現象(月、星、太陽、天気)の関連について考えさせていく。 ・「課題に対する予想を立てる」目的意識や見通しをもって実験、観察をする」「結果を記録し話し合う」「考察しまとめる」の流れを明確にした授業を展開し、自然の事物・現象を科学的に探究する力を育てる。 ・「目に見えないもの」を理解させるためにタブレットでの調べ学習を行ったり、模型を活用したりすることで、視覚的に訴えるような活動を行う。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問に対する肯定的回答は99.1%と高い。将来大切だと思う教科については、国語が98.2%、社会98.1%、算数98.1%、理科89%で県や市の割合を上回っている。小学校での学習が将来につながっていることをしっかりと意識できているといえる。自分の将来を考えて学習に取り組む大切さを、引き続き指導していきたい。

○「理科の学習が好き」の肯定的回答は90.8%で市より5.1%高く、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」の肯定的回答は62.4%で市より7.7%高い。実験したり何かを調べたりと、体験的な活動に興味を示していることが伺える。タブレットを有効に活用していくことで、さらに学習に対して主体的に取り組めるよう、活用法を考えて指導の充実を図るとともに、声掛けを続けていきたい。

●「家で、学校の宿題をしている」の質問に対する肯定的回答は99.1%でほとんどの児童がしっかりと実施できていることが分かる。市の割合を上回っている。一方、「予習や復習をおこなっている」の質問項目ではどちらも市の結果を下回っている。さらに、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している」においては58.7%で、市の平均の73.1%と比べると大きく下回っていることが分かる。学習が宿題で終わることがないように、予習や復習に取り組んだり、失敗を恐れずに挑戦する大切さを授業や学校行事等を通して伝えたりすることで、児童の自主性を育てていきたい。

●ふだん(月～金)、一日あたりテレビゲームや動画、DVDなどを見ている時間は、3時間程度が12.8%、4時間以上が24.8%となっている。そのような現状の中、「時間を上手に使うことを、心がけている」の質問に対して、肯定的回答は67.9%で、市の平均の77.7%よりも下回っている。「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的回答も市を下回っていることから、テレビを見る時間を決めるなど、家庭でのルールを設定していただくよう家庭への啓発も行い、規則正しい生活を送ることで時間が有効に使えるように指導していきたい。

●「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」の質問に対する肯定的回答は89%となっており、責任感の強さは感じ取れるが、「自分はクラスの人役に立っていると思う」と感じている児童は50.4%で、市の平均の64.1%より大きく下回っており、自尊心の低さが見える。帰りの会等で、お互いの良さを伝え合う場を設定し、充実させるとともに、それぞれが自分のよさを見つけ、自信をもつことができるように教師が積極的に声を掛けたり、学級に児童のよさを広めたりしていきたい。

●「国語の学習が好き」「算数の学習が好き」という質問に対する肯定的回答はどちらも56%で、市の平均を10%以上下回っている。あわせて、国語・算数の授業への理解度も市の平均を8%ほど下回った。国語では、今回のテストでも問題を解く時間が十分だったと答えた児童は32.1%にとどまり、市の平均51.2%を大きく下回った。一方で、「国語の学習はしょう来的のために必要か」の肯定的回答は98.2%と高く、学習の重要性を感じている。読書活動の充実や、おすすめの本紹介など、インプットする活動とアウトプットする活動を取り入れることで国語力の向上と国語への興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立石井小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを伝え、深め合う活動の工夫	ペア学習やグループ学習、ICT機器の活用を取り入れながら協働的な学習を積極的に行い、自分の考えを話したり書いたりするとともに、互いの考えを共有する時間を取り入れるように工夫している。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対する肯定的な回答は、4年生ではポイント80.8ポイントと県の平均をやや上回った。しかし、5年生では71.6ポイントと県の平均をやや下回っている。 ・「授業で自分の考えを書くことは難しい」という設問に関しては、難しいと感じている児童の割合が、4年生では71.6ポイント、5年生では65.1ポイントと、苦手意識をもつ児童が多いことが伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
いくつかの情報をもとに、導かれる答えを記述式で書く設問の正答率が、県や市の平均と比べて低い傾向にある。また、記述式の設問に関しては無答の割合も高い傾向にあった。	様々な教科の学習の中で、自分の考えを書いたり、友達の考えに触れたりする活動をさらに取り入れていく。	学習活動の中で、様々な機会を捉えて、自分の考えをまとめて記述する活動を積極的に取り入れていく。特に授業の振り返りの活動において、教師が振り返りの視点を与えることにより、より思考を整理して自分の考えを書くことができるように支援したい。また、メモや必要な情報の抜出しなど、自分の考えをまとめていくまでの段階も丁寧に指導したい。さらに、自分の考えを書く際には、字数や使用しなければならぬ語句など、条件に合わせて自分の考えをまとめることを意識させたい。互いの考えを伝え合うことで、思考の課程に自信をもったり、他者の考えからさらに自らの考えを深めたりすることができるように指導したい。